

平成26年10月10日  
震災復興・企画部 震災復興・企画課

## 気仙沼市東日本大震災遺構検討会議について（開催報告）

### 1 設置及び第1回会議

日 時：平成26年10月8日（水）午後3時～午後5時  
場 所：市民健康管理センター「すこやか」2階  
出席委員：10名（12名中：裏面のとおり）

### 2 代表・副代表の選出

代表：川島 秀一氏 副代表：近藤 公人氏

### 3 説明内容

- (1) 遺構保存対象物件の状況について
- (2) 遺構保存調査について
- (3) 過去事例・他市事例について

### 4 意見交換

テーマ：「10年後の地域イメージと震災遺構の役割」

〔委員から出された主な意見〕

- 向洋高校は階上地区の遺構でなく、市全体の遺構として検討していく必要がある。保存された遺構により、地域からのメッセージが発信され、次世代への警鐘ともなる。  
階上地区は被災の状況が一望でき、震災の伝承、防災教育に適した地域であるほか、岩井崎など市内有数の観光資源を有しており、それらの再生を併せて進められたい。  
校舎等の建物は単に遺構保存だけでなく、地域の施設としての活用も検討されたい。
- 気仙沼市の教育旅行の受入れ実績を見ると、25年度は31校2,041人であったが、26年度は9月時点で39校2,528人となり、大きく増加している。向洋高校を現地視察したい声も多いので、観光対象としての関心は非常に高い施設になると思っている。
- 未曾有の災害といえども、10年後は三陸道が開通するなどまちは大きく変わり、震災の記憶の風化は進んでいく。忘れないためには遺構は必要である。  
防災教育として資料の展示室も併設することも検討されたい。その場合、地元では学校教育のカリキュラムに加えてもらいたい。  
遺構を遺す目的は、教育が主であり、観光はサブであると捉えている。
- 遺構の目的を明確にすることが必要である。今回と同様な大津波がまた必ず来るとの前提で、いかに対処するかを考えるものとして、減災を意識した方がよい。
- 遺構の目的により遺し方や遺す範囲も変わるので、目的は明確にする必要がある。  
向洋高校は市外での知名度はあまりなく、市中心部の施設や隣市の施設と連携した見せ方をしていくことも大事である。